

---

# めだかボックスのおはなし 4

キイナ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

めだかボックスのおはなし4

### 【Nコード】

N3418Z

### 【作者名】

キイナ

### 【あらすじ】

こころもかんじょうもない、おんなのこのおはなし。

『人間』（前書き）

1、2、3とは関係ない。

## 『人間』

何も無い、ただの白い部屋。

一人座る少女。

よく『まるで心がないようだ。』などの表現があるが。

その少女は、何も無い。

心もなければ、感情もない。

聞くこともなければ、喋ることもない。

かろつじて、息をする事だけは出来た。

しかし、それも感情も思いも無いものだった。

今日も何も考えることもなく、過ごす。

そんな少女は、生きてるかどうかも定かではないほどだった。

考える事が出来なければ、『人間』には属さない。

そう、『人間』は考えた。

『文字通り』

少女の名前は、如月零羅<sup>きんげいれいら</sup>。

零羅は、幼い頃施設に預けられた。

その施設では、零羅を悪用しようとする人間がいた。

『心が無いならば、何も考えずに従ってくれるのではないか』と。

しかし、零羅には文字通り心が無い。

ゆえに、従おうとする考えが働かないのだ。

研究に研究を重ねるうちに、彼らは零羅のことを可哀想だと思い始めた。

なんとか零羅を救えないかと、研究を進めた。

そして、ある少女見つけた。

彼らにあった悪の心はなくなっていた。

『頑張るよ』

零羅が居る部屋に、一人の少女が入ってきた。

少女は零羅の前でしゃがみこんだ。

「こんにちは」

返事は、無い。

「如月零羅ちゃん？私は、流水せいの？蘭らん。君とおはなししたいなあって  
思っおもって」

『思おもっつ』

？蘭は人生でそれが生き甲斐と言っいてもいいほどだった。

「私は異常アブノーマルって言っいってね………………。君を助けるのにはまだまだ不十分ふじふんなだけど、きつつと、私は君を助ける為ために、頑張がんばるよ」



苦笑しながら自分が『不十分』だと語る？蘭は、少し年上に見えたが、実際には零羅と同じ年だった。

「絶対、ね」

にっこりと笑い、？蘭は言った。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3418z/>

---

めだかボックスのおはなし4

2011年12月11日21時50分発行